

横山 和子/セーラ・ルイーザ・バーチュリ著
日系・トランスナショナル
起業家研究

ブラジル・メキシコ、日本の事例から

外国で暮らすと母国で 日本は3カ国を舞台に日 本移民の子孫である日 系人、自身の母国とは別 日常生活で困難に陥った 場所での事業を営むト ラ ンスナショナルの起業家 が先人だ。本書には中南 米と日本で同胞の暮らし を手助けするようなビジ ネスを立ち上げ、事業を 広げる「国際起業」に取 り組んだ魅力的な経営者 が取り上げられている。 本書の2人の著者が 「国を超えて生き、働く 人々」に関心を示したの は、日本とウェルズに ルーツを持つ者として 外国で研究、就業の経験 を持ったためだ。2019 年に東南アジアの起業家 について研究しており、 今回は2作目にあたる。 プラジル、メキシコ、

サンパウロの東洋人街 リベルダーズで有数の人 気店と言えは21年にオ ープンした「DON JIN 二」だ。経営者の日系 2世である長谷川洋二氏 はプラジルに生まれた。 日本で教育を受けた後、

「超男性的な」実践のイ メージとは相容れない。 男性集団の権力関係を第 三者が容易には読み解け ない理由がよくわかる。 「転落」を恐れて現状 を守り抜こうとする姿勢 は、もう少し特権的な立 場にいる男性にも同様に 見受けられる。本書の中 盤からは、「マジョリテ ィ研究」としてのメンズ リフ/男性学の本領発揮 である。これまでマジョ リティといえは無微化さ れる存在だった。しかし マジョリティ男性は、 3領域を統合する本書 は、「これだから男はこ うなのだ」という従来の ステレオタイプ運動で加害者 として名指されたり、直接 的な加害行為がなくとも ただ存在するだけで特権 (しゅうじ・あきら)作 家・主夫

西井 開著
転落男性論

孤立・暴力・ホモソーシャル

別に男らしさを志向し ているわけではない。に もかわらず、「男らし さから降りる」ことがで きない。男性たちがそう なる理由は、ある一定の 基準から転落しないよう に必死で現状に縋りつ いているからかもしれない。仲間はずれにされな いために、「普通」では ないと思われたいよう に。そこにあるのは、何 かを達成したいという欲 求ではなく、転落に対す る恐怖だ。本書は、男 性のマクロなアプローチ と臨床心理学のミクロな アプローチの両方からこ

人が住まう。法務省によ ると日本には412万人 の外国人がいる。この中 で経営者になるには才覚 がいる。 メキシコで日系2世の 春日カルロス氏は著名経 営者として知られる。ヤ クルト現地法人の初代社 長で、各地のスーパーで 製品が当たり前に置かれ ているようにした功労者 だ。食習慣を調べるため に道端に捨てられている ゴミを早朝4時に回収し て「野菜を洗わずに食べ ており、腸内環境に問題 を抱えている」と分かっ たことが事業開始のきっ かけだったと明らかにす る。

国際起業に取り組んだ魅力的な経営者たち

企業家を生かし日本との関係を強化する12の提言



A5判・256頁・2860円 文真堂 978-4-8309-5303-3 TEL. 03-3202-8480

宮本 英 威
要なのは「日系子弟に対 する日本語教育支援の強 化」だ。在日外国人が学 齢期の子もまた向けられ 教育で日本語、母国語の 双方が中途半端になり悩 むケースは多いのだが、 公的支援を十分に受けら れる状況にはなっていない。 現在ではオンライン上で のサービス提供を軸に軽や かに国境を越えている日 系の起業家が生まれてい る。 2024年の岸田文雄

先住民村落

慣習 調和 葛藤の動態

本書は著者がメキシコ リオスには、ナティボ (地元民)やオリヒナリ (元来の住民)を自 にわたって訪れ、緻密な フィールドワークを重ね ることで得られた良質な 民族誌である。著者がそ こで目にしたのは、都市 部の拡大や行政区分の変 更に伴って、都市内部 に取り込まれていった先 住民村落にルーツを持つ 地区の存在であった。こ うした地域はスペイン語 で「エプロス・オリヒナ リオス」(元から存在する 村)と呼ばれ、2018 年の政府による統計調査



A5判・174頁・4400円 関西学院大学出版会 978-4-86283-413-3 TEL. 0798-53-7002

一枚岩ではない「先住民」

緻密なフィールドワークによる良質な民族誌

首相のブラジル訪問に同 行したドリームストック (東京・千代田)がその 一例だろう。松永マルセ ロ最高経営責任者(CEO) は「IT技術を生かす には、国境をまたいだアロ ャー選手との移籍やユ ース選手のセレクション の支援を提供する。今後 合計10年弱住んでおり、 慣れ親しんだ名前が本書 の随所に出てくる。サン パウロではJOJOLAI メンやレストランの藍染 で舌鼓を打った。アチ バイア栗園やNICKS Palaceホテルを訪れ、 MNプロボリスは定番の お土産だった。メキシコ シティではレストランの MOGやタルマで日本食 を食べ、スーパーMARKA で食材を手に入れた。ピ アス東洋メヒカーノに は仕事や観光で支えても らった。 それぞれの飲食店や企 業は駐在員の日常生活に

★よこやま・かずこ 経営学者。インターナシ ョナル・キャリア・デ ィベロップメント株式会 社CEO。 バーチュリ・ルイーザ・ 学教授・人的資源管理。

を起し、資源利用の優 先権を主張する。こうし たことは、カトリック教 会と守護聖人への強い信 仰や、村落の墓地に埋葬 されたという譲れない こだわりによるものであ ると著者は考察する。 しかし著者の慧眼は、 ここにとどまらない。祭 礼やナティボやオリヒ ナリオたちは決して一枚 岩ではなく、内部には分 裂、敵対、不信が渦巻い ているのだ。というの も、「自治」や「慣習法」 は各村で決められるのが 実情であり、その内容は 恣意的なためである。た

日本評論社 新刊のご案内
数学セミナー 6月号
司法試験・予備試験
憲法 刑法
実践! 児童発達支援
DCCD(発達性協調運動障害) 知る・分かる・行・広げ
AI 大格差

出版局
ながい害
ながい害 (あな) 在 朝鮮人の姿を通して差別の実態を克明に描き出 した1970年初出の重要著作が、原稿からの再スキャ ンにより復刻。解説80頁付 (執筆: 四方田大彦 本浜秀彦/李鳳宇/神谷丹路/林最一/李英美) A5判・並製・134頁/2200円